



Contents

- 平成二十七年を振り返って
- 10月～11月の怒濤の外交日程



第6回日中韓サミット(於:韓国) 11月2日



4. ルクセンブルク 11月4日～11月6日



5. フィリピン 11月16日～11月17日



6. オーストラリア 11月20日～11月23日



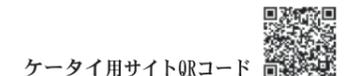
季刊「翔」六十四号 発行平成二十七年十一月十六日
自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室
〒730-0013 広島市中区八丁堀六一三 和光八丁堀ビル九階

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<http://www.kishida.gr.jp/>



岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、株日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後8期連続当選中。
自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。
平成23～24年にかけて野党自民党において国会対策委員長として指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。
また24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。
平成24年に発足した第二次安倍内閣において外務大臣として入閣、続く第二次安倍改造内閣・第三次安倍内閣・第三次安倍改造内閣でも引き続き再任され、現在戦後外務大臣の在任期間歴代6位という長さとなっている。

岸田文雄フェイスブック

<https://www.facebook.com/fkishida>

日々の活動写真を中心に更新しています



平成二十七年を振り返って

外務大臣 岸田文雄

平成二十四年十二月に第二次安倍内閣がスタートしてから、丸三年が経ちました。

今年には戦後七十年の節目の年とされ、外交・安全保障の分野で大きな出来事が続きました。十八年ぶりの日米安全保障のガイドラインの見直し、初の日本の総

理の米国上下院合同会議での演説、戦後七十年談話、三年半ぶりの日中韓サミット……。

特に春から秋にかけて行われた、平和安全法制の国会論戦は、国内外の注目を集めました。

その中で、国際的な安全保障環境の大きな変化の中、我が国の国民の命や暮らしを守るために、日本の今の制度や備えは十分なのかという議論が行われました。

この十〜二十年の科学技術や国際情勢の変化だけを見ても、当然変化が求められる。それではどこまで変えていかなければ



ASEM外相会合

ばならないのか……。

一方で、我が国には戦後の日本を支えてきた平和憲法があります。この憲法との関係においてどこまで対応が許されるのか。

このふたつの課題のバランスの中で、ギリギリの議論が行われ、ひとつの結論に達しました。戦後の政治の中でも大変重要な議論であったと思います。

そして来年、政治は「経済の季節」を迎えると言われています。アベノミクス「新三本の矢」、TPPの署名、日EU経済連

携協定(EPA)交渉など、日本経済の活力が問われます。ぜひ日本の経済再生が、広島をはじめ地方においても実感できるような成果を上げていかなければなりません。

あわせて来年は、日本の外交にとっても国際的に大きな責任を担う重要な年となります。八年ぶりにG7の議長国を務めます。五年ぶりに国連安保理非常任理事国を務めます。日中韓三方国サミットの議長国も、今年には日本が務めます。

その中で広島においてG7外相会談が開催されます。G7外相会談は、自由や民主主義、法の支配、人権といった基本的な価値を共有する主要国の外相が集まり、国際社会の外交・安全保障について議論する大切な枠組みですが、あわせて、こうした主要国の外相に被爆地広島を訪問してもらい、被爆の実相に触れてもらい、「核兵器のない世

界」実現に向けた機運を高めていくことに繋がればと期待しています。

来年は参議院選挙もあり、日本にとって政治にとって、これからの左右する大切な一年となります。私も心を引き締めて臨みたいと存じます。ご指導をお願い申し上げます。次第です。



クッタバル海軍基地訪問(オーストラリア)

10月~11月の怒濤の外交日程

今年は通常国会が9月まで延長され、外務大臣も所管大臣として委員会出席が義務づけられた平和安全法制の特別委員会がギリギリまで審議されたため、例年よりは外遊に出ることができませんでした。そのため国会が終わった直後から、それを埋め合わせるかのように外交日程が続きました。

1. 国連(米国) 9月28日~10月1日



日米地位協定の環境補足協定の署名



日・米・印外相会合



第9回包括的核実験禁止条約(CTBT)発効促進会議

2. イラン・カタール 10月11日~10月15日



ローハニ大統領(イラン)



ザリーフ外相(イラン)



ザンギャネ石油大臣(イラン)



タムーム首長表敬(カタール)



アブドゥラー首相兼内相(カタール)



アルディヤー外相(カタール)

3. 韓国 11月1日



日韓外相会談



王毅外交部長(中国)



ユン・ビョンセ外交部長官(韓国)